

## 校名：鹿児島大学教育学部附属中学校

所在地：〒890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元1丁目20番35号

電話番号：099-285-7932

記載日：2016年5月15日

記載者：山田 剛

記載者役職：教頭

### 貴校の校風、おおまかな特色について：

本校は、創立65年目を迎え、596名（学級数15）の生徒が在籍している。校舎に沿うように並び七本の銀杏の木は、本校のシンボルツリーであり、それぞれの木に「真理・理想・自律・誠実・友愛・剛健・雄飛」の校訓の名前が充てられている。

本校は、校区が鹿児島市内全域となっており、附属小学校からの卒業生と各公・私立小学校からの卒業生が、徒歩や公共の交通機関等を利用して通学している。また、鹿児島県のモデル校として、先進的な教育に取り組んでいる。特に生徒会活動が盛んであり、学校行事の多くが生徒主体で企画・運営されている。



校舎の様子



一日遠足



卒業生を囲む会

### 貴校の卒業生の活躍状況について：

本校卒業後は、公私立の高等学校へ進学する生徒がほとんどである。高校卒業後の追跡調査は行っていないが、多くの生徒は大学などの上級学校へ進学している。

本校では、卒業生が1万人以上に上り、2年に1度、同窓会を行い、600名余りの卒業生が集まる行事となっている。同窓生は、鹿児島県内外の企業や役所等で中心的な役割を担っている人が多く、リーダーとして活躍している。

本校卒業の有名人としては、歌手の辛島美登里氏や北京五輪男子水泳400mメドレーリレーの銅メダリストの宮下純一氏などがいる。



第9回同窓会

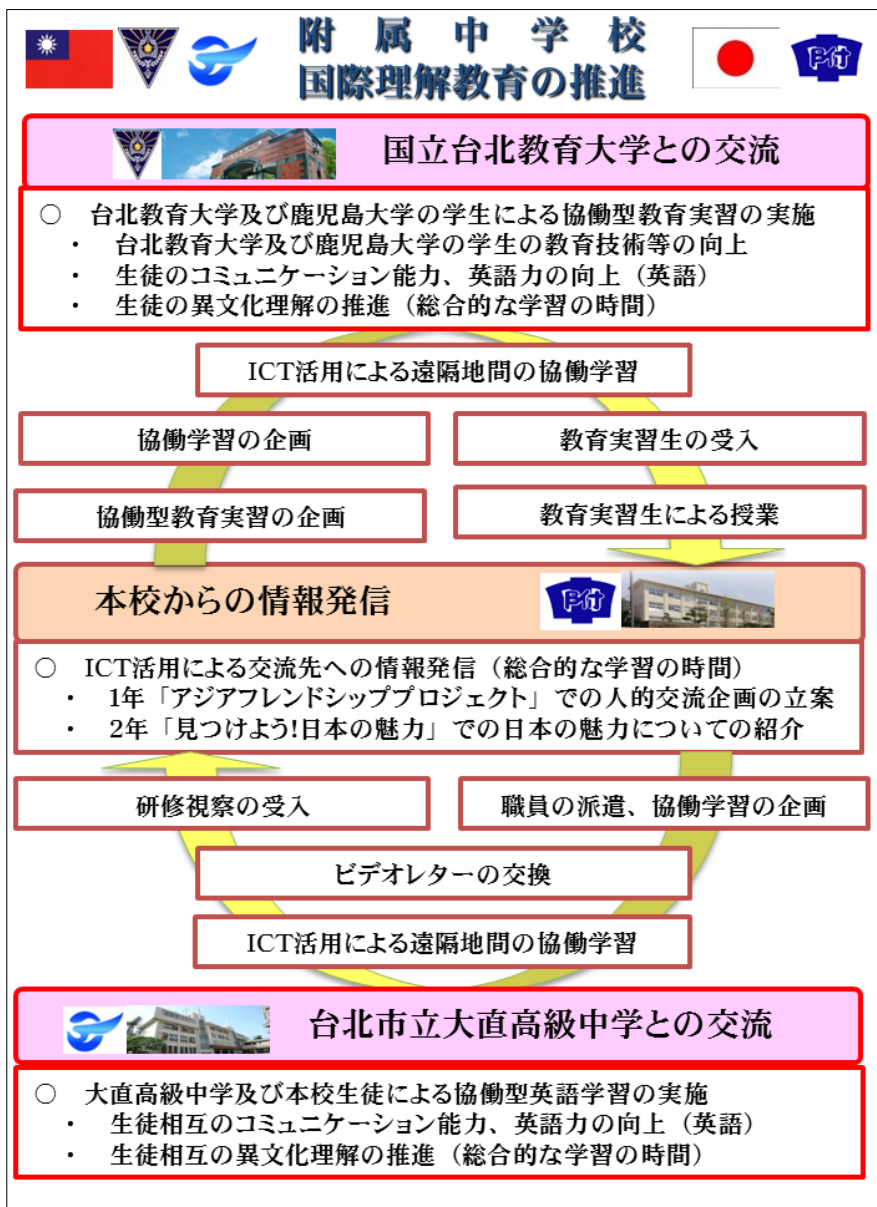
### 貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

本校の職員は、公立学校からの割愛という形で国立大学法人鹿児島大学の職員として勤務している。そのため、本校での勤務を終えた後は、公立学校へ戻ったり、教育委員会などの教育行政で勤務したりしている。本校を異動された後も教科の専門性などの指導をいただく機会が多い。

本校のOB・OGは、県下の教育機関に多数在籍しており、県の教育の推進役として活躍をしている。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

1 本校における国際理解教育について



本校では、鹿児島大学教育学部と台湾の国立台北教育大学と学術提携協定を結んでいることを活かし、平成26年度より台北教育大学より教育実習生を受け入れている。彼らは、台湾で小学校の英語教師になることを目指しており、英語の教育法を学ぶために本校で教育実習を行っている。日本語が話せない彼らとコミュニケーションをとるために、英語でやりとりすることが必須となり、生徒・教員ともにより刺激となっている。

本校では、平成25年度より台湾の大直高級中学と姉妹校提携を結んでいる。英語科の授業において、ICT機器を用いて、大直高級中学との遠隔交流を行っている。台湾の生徒の英語力は高く、本校の生徒にも大きな刺激となっている。



台北教育大学の教育実習生による授業



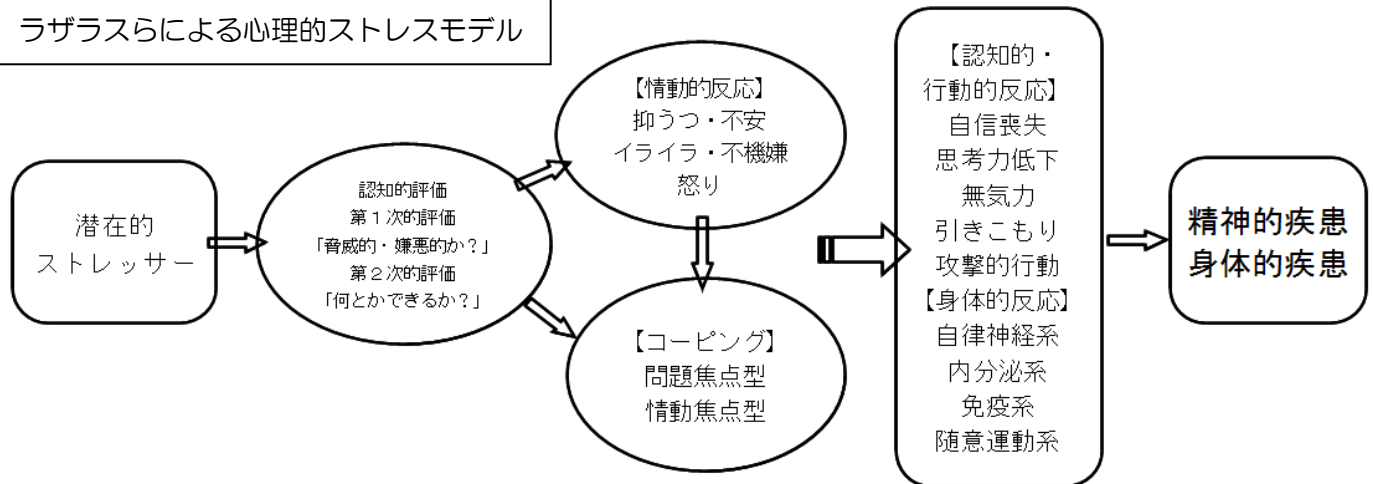
大直高級中学教員団の来校

## 2 本校におけるストレスマネジメント教育

本校では、ストレスマネジメント教育を平成14年から実施し、毎週木曜日に朝の活動として、全学級で取り組んでいる。

ストレスマネジメントという用語は、ストレスを阻止・軽減するための対応策と具体的介入という意味で使用されることが多いが、最近ではストレスに備える「予防措置」としての意義が注目されるようになってきた。下記のラザラスらの心理社会的ストレスモデルに準拠し、各段階の対応策が指摘されている。(山中, 2000, 基礎編 P5~6) 本年度の実施にあたって、下記のストレスマネジメント教育の内容を学年の状況に応じて実施していくことにする。

### ラザラスらによる心理的ストレスモデル



### ストレスマネジメント教育の内容

- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| ① ストレスの本質を知る   | ② 自分のストレス反応に気づく |
| ③ ストレス対処法を習得する | ④ ストレス対処法を活用する  |

### ストレスマネジメント教育プログラム

※ ウォーミングアップとして、背伸びなどの動作、ほっとする姿勢、構えを体験

- ① 肩を中心とした、肩の上下プログラム
  - セルフ・リラクゼーション
  - ペア・リラクゼーション (ステップ I~V)
- ② 肩の反らせプログラム
  - ※ 肩の上下を習得したら、この課題を行う。
    - セルフ・リラクゼーション
    - ペア・リラクゼーション (ステップ I~V)
- ③ 身体的リラクゼーション 漸進性弛緩法
- ④ 精神的リラクゼーション 呼吸法, イメージ法
- ⑤ 自己マッサージ 顔面
- ⑥ 認知的評価を変える取り組み



ストレスマネジメントの職員研修

講師：日本ストレスマネジメント学会理事 佐伯陵子先生



親子ふれあい活動における  
ストレスマネジメント

※ (山中, 2000, 基礎編, 富永, 2000, 展開編参照)

## 地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

本校の使命の一つとして「研究会並びに共同研究，教育交流等を行い，現職教育の振興に寄与する」を掲げている。今後ますます，現場教育の振興のための研修受け入れは増えるものとする。昨年度の地域における現職教育の振興として，以下の取組が挙げられる。

### 【派遣】

- ・奄美市の「あまみ授業セミナー」の講師として理科・社会科の職員の派遣
- ・鹿児島市・始良市の教育委員会からの要請で，美術科職員を講師・審査員として派遣
- ・清水中学校の研究授業での指導助言者として国語科職員の派遣
- ・南さつま市へブラッシュアップ研修の指導助言者として美術科職員の派遣
- ・教員免許状更新講習において，社会科職員が講師として講座の開設

### 【受け入れ】

- ・南さつま市のブラッシュアップ研修として数学科・美術科職員の受け入れ
- ・錦江町教職員研修として国語科・社会科職員の受け入れ
- ・福岡県みやま市から数学科教員の受け入れ
- ・松陽高校からパワーアップ研修として音楽科職員の受け入れ
- ・宇検村の管外研修として養護教諭の受け入れ
- ・JICAによるブータン教員団研修の受け入れ
- ・台湾から台北教育大学の教員団の視察の受け入れ
- ・理科教育学研究としてオルンデンプルク大学（ドイツ）の学生の受け入れ



ブータンの教員団

## 附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

本校の存在意義として附属中の3つの使命に関して述べると以下の通りである。

### 1 「学部と一体となって，中学校教育に関する理論的・実践的研究を行う」

本校では，毎年，学部と県・市の行政機関から指導助言者を招き，研究公開を行っている。昨年度の研究公開参加者は510人に上り，鹿児島県下の教職員及び学生に対して，実践を通じた研究を示している。また，昨年は，公開冊子とは別に授業研究冊子を頒布した。内容は，協働型授業研究の在り方について，長年にわたる附属中の授業研究のスタイルや方法を基に様々な授業研究の規模に対応できるものとした。

附属学校園に脈々と伝わる研究と実践，授業の秘伝などを現場に還元するために行われる研究公開及び研究冊子等の頒布の意義は大きいと考える。

### 2 「学部の計画に従い，学生の教育実習の場として，その指導に当たる」

本校では学部の要請に基づく教育実習の受け入れを多数行っている。昨年度は，大学2年生の参加観察実習として40人，大学3年生を中心とした教育実習生（第1免許取得）56人，大学4年生の教育実習生（第2免許取得）15人，教育実習を終えた後の4年生が行う教育実践演習として20人の受け入れを行った。また，教育実習に来る学生に向けて，各教科において事前研究という形で90分の講義を3コマ程度行った。

将来の教員を養成するための教育実習に係る業務をこれほど大規模かつ確立した制度の下で行えるのは，附属学校園のみと考える。

### 3 「研究会並びに共同研究，教育交流等を行い，現職教育の振興に寄与する」

上述の通り。